

岩手労福協

発行

(一社)岩手県労働者福祉協議会
盛岡市大通1丁目1-16 岩手教育会館3F
TEL (019) 654-3082

発行責任者 佐々木秀市
編集責任者 菅野 健司

No.168 2023年7月21日発行



陸前高田を椿の花で真っ赤に染めよう さらなる復興願い椿を植樹

前日の雨があがり、植樹会当日の6月17日（土）は、時折晴れ間が顔を出す穏やかな天気に恵まれました。椿の植樹は今回で2回目、今年も県内各地から親子連れを含む33名が参加しました（盛岡地区労働者協議会協賛）。最初にレッドカーペット・プロジェクトの高橋代表から歓迎の言葉をいただき、植樹の手順を教わった後、陸前高田市のさらなる復興を願い椿の苗木35本を植えました。また、昨年11月5日に植えた椿がお披露目され、一本も枯れずに艶のある葉を青々と茂らせていました。参加者から、「自分たちが植えた椿が元気に育っている姿を見て嬉しかった。」「お手伝いのし甲斐を感じた。」「また来年も来ようと思った。」と感想がありました。



主催者挨拶
鈴木常務理事



歓迎の挨拶
RCP 高橋代表



植樹の手順を
レクチャーした
RCP 吉田さん



去年植えた椿の葉っぱイキイキ



すべての働く人の幸せと豊かさをめざして 第84回定時総会開催

岩手労福協は、5月25日（木）、第84回定時総会をホテルニューカリーナにおいて開催しました。コロナが5類になり、今年から通常開催方式に戻しました。来賓として、中央労福協から南部美智代事務局長、岩手県から商工労働観光部定住推進・雇用労働室の三河孝司室長、盛岡市から商工労働部の曾根田雅彦次長をお迎えしました。

山田清秋副会長の開会挨拶で総会が始まり、議長に岩手友愛会の猪股秀行社員代表が選出されました。正会員数20、出席19（内書面議決2）、欠席1。

佐々木秀市会長は、「コロナは感染症法上の取り扱いが5類となったが、今般の非常時にその影響を最も受けた生活弱者と言われる人たちがいることを忘れてはならない。労働者福祉運動は、戦後の混乱期に“福祉はひとつ”的精神で始まり、時代とともに主体的取り組みとして広がってきた。この間、バブル経済の崩壊、阪神淡路・東日本大震災や相次ぐ豪雨災害、コロナの感染拡大、あるいは奨学金の問題など、様々な困難なことが起きた。その都度、私たちは労働者としてできる共助の取り組みを展開し、時代とともに国民的福祉運動へと広げてきた。世の中は、加速する情報化社会と人口減少などこれまで経験したことのない時代に入っていく。創業の精神である“福祉はひとつ”は、永遠のテーマとして引き継いで行く

岩手労福協〔2023年度役員〕

会長	佐々木 秀市	（連合岩手）
副会長	金田一 文紀	（東北労金岩手県本部）
副会長	佐藤 伸一	（こくみん共済 coop 岩手）
副会長	佐藤 工	（平和環境岩手県センター）
副会長	山田 清秋	（岩手友愛会）
専務理事	菅野 健司	（岩手労福協）
常務理事	鈴木 圭	（連合岩手）
理事	佐藤 淳一	（ハピネス共済会）
理事	大坪 勝利	（信用生協）
理事（欠員）		（岩手県学校生協）
理事	伊藤 裕一	（連合岩手）
理事	佐藤 茂生	（連合岩手）
理事	藤本 誠	（連合岩手）
監事	長谷川 博之	（東北労金岩手県本部）
監事	赤坂 徹	（こくみん共済 coop 岩手）

べきものだ。すべての働く人の幸せと豊かさを目指して、連帯・協同で安心・共生の福祉社会を作っていくことを、あらためてお誓いしたい。」と、理事会を代表して挨拶を述べました。

第1号議案「2022年度事業報告」、第2号議案「2022年度会計報告並びに監査報告」、第3号議案「理事及び監事の報酬等」、第4号議案「2022年度団体会費」の全ての提出議案が満場一致で承認されました。



佐々木会長



中央労福協 南部事務局長



岩手県 三河室長



盛岡市 曽根田次長



総会議長の猪股さん



ライフサポートセンターいわて 第16回定期評議員会開催

ライフサポートセンターいわては、5月25日（木）、ホテルニューカリーナにおいて第16回定期評議員会を開催し、2022年度活動報告、会計決算・監査報告、2023年度活動計画（案）、予算（案）の提出議案が満場で可決承認されました。

ライフサポートセンターいわては、2023年度も「くらしの何でも相談」を中心に勤労者とその家族の安心・安全な暮らしをめざして活動してまいります。同時に、2024年度以降のライフサポート事業（無料生活相談）のあり方について協議を継続します。

* ライフサポートセンターいわて [2023年度役員] *

理事長 佐々木 秀市（連合岩手）	理事 大坪 勝利（信用生協）
副理事長 金田一 文 紀（東北労金岩手県本部）	理事 佐々木 正人（連合岩手）
副理事長 佐藤 伸一（こくみん共済coop岩手）	理事 村上 純（LSC北上）
副理事長 佐藤 工（平和環境岩手県センター）	理事 伊東 喜幸（LSC宮古）
副理事長 山田 清秋（岩手友愛会）	会計監査 長谷川 博之（東北労金岩手県本部）
事務局長 菅野 健司（岩手労福協）	会計監査 赤坂 徹（こくみん共済coop岩手）
事務局次長 鈴木 圭（連合岩手）	

労福協 2030年ビジョン ~つながる 寄りそう 支え合う~

ライフサポートセンターいわて 2023年度研修会開催

ライフサポートセンターいわては、定期評議員会終了後に研修会を開催しました。講師に南部美智代労働者福祉中央協議会事務局長をお招きして、労福協 2030年ビジョンについて講演いただきました。

中央労福協と労働団体・事業団体・地方労福協の関係は、縦型（上下関係）ではなく、各団体同士が横でつながる「ゆるやなか協議体」であることや「福祉はひとつ」で始まった労働者福祉運動の歴史と理念、そして2030年にめざす社会像と日本社会の課題など、労福協運動のビジョンが紹介されました。

◆レッドカーペット・プロジェクト（略称：RCP）について

RCPは、地元事業主が中心となって創設された一般社団法人です。市の花である椿で未活用土地を真っ赤に染めることで新しい景観を創り（観光資源）、その椿を原料とする商品製造を通じて障がい者を含む雇用の創出をめざしています。また、コロナ禍により休職や休業で収入が減少した労働者に、家計応援の一助に資するため就労の場を提供しています。

岩手労福協は、2021年度全国研究集会in福島でRCPが全国に紹介されたことを機に、被災地支援事業にRCPを追加しました。具体的には、事業支援のための助成金を贈ること、椿の植樹作業の二つです。支援期間は向こう3年間とし、その後の継続については理事会で協議します。

中央労福協 2023年度全国研究集会 in 愛媛に 224名が集う 世代間の連携・協同の可能性について考察を深める

6月9日（金）愛媛県松山市において、中央労福協主催 2023年度全国研究集会が開催されました。会場となった松山市民会館に全国から 224名が来場し、YouTubeを視聴した人は 303名、岩手労福協から佐々木会長、菅野専務理事、武藤職員が参加しました。

トークセッションでは、大学の教授・准教授、社会や地域の課題に取り組むNPO法人、労福協関係者が登壇、“新しいつながり”をテーマに問題意識や課題、事例紹介、今後の活動などに関して意見が交わされました。若者たちの持つ感性、価値観、考え方や生き方を学び、同じ時代を生きている者同士が世代を超えてつながり合い、若者を基軸にさらに世代間の連携・協同の可能性について考察を深める機会となりました。

令和の幕開けとともに訪れたパンデミックは、DXを急速に進展させ、2025年にはデジタルネイティブやソーシャルネイティブと言われるZ世代が生産年齢人口の半数を占めます。私たちは今、加速度的に変化を続ける時代に生きていることを認識するとともに、新しい視点で今まで接点のなかった層へつながりを広げていく必要性を強く感じた集会でした。



コロナ禍で食糧支援要請が増え現在も高止まり フードバンク岩手への支援継続

岩手労福協は、生活困窮者支援活動の一環として、フードバンク岩手の支援を2017年から始めました。今般のコロナ禍で、フードバンクが食料支援を行った世帯数は、2020年829世帯、2021年924世帯、2022年1039世帯と右肩上がりに増えました。要請件数では年間2700件を記録、過去最高を更新しました。

夏休みや冬休み期間は、給食を頼りにしている世帯からの緊急支援要請が通常月の倍以上になります。岩手労福協は、今年も夏季支援として6月27日に5万円を寄付しました。フードバンク岩手の阿部事務長は、「コロナが5類になんでも食糧支援要請は高止まりの状況。岩手労福協のご支援はありがたく、寄付金は生活困窮者の支援に使わせていただきます。」と謝意を述べられました。



佐々木会長から阿部事務局長（右）へ
支援金を渡しました。

第9回連合岩手・労福協 合同チャリティーゴルフコンペ開催

岩手労福協は、連合岩手と合同で第9回チャリティーゴルフコンペを5月30日（火）盛岡南ゴルフ俱楽部で43名（11組）が参加して開催しました。当日は絶好のゴルフ日和に恵まれ、ゴルフを通じて交流を深めました。結果は、山口康幸さん（JAM）が初優勝、金田一副会長から優勝カップが授与されました。

今回ご協力いただいたチャリティーの総額は43,000円でした。ありがとうございました。このお金は、フードバンク岩手に全額寄付をさせていただきました。



〔結果〕 優勝 山口 康幸（JAM） 第2位 岩渕 力也（JR総連） 第3位 高野橋 伸（東北労金）



優勝した山口さん（右）



第2位の岩渕さん（右）



第3位の高野橋さん（右）

岩手県自転車条例が4月1日施行されました 県民が安全に安心して暮らすことができる社会の実現に向けて

岩手労福協は、自転車の安全な利用等の促進に関する条例制定（自転車条例）を求め、2018年から連合岩手と共同で岩手県に要請してきました。

この様な動きは、自転車活用推進法の施行（2017年5月）を契機に、全国の自治体において条例による損害賠償責任保険の加入義務化（または努力義務）が進められてきました。その背景には、自転車事故で被害者が意識不明になったり重大な障がいが残ったりしたケースの裁判で、加害者側に高額な損害賠償を命じる判決が下りましたが、支払いができず加害者および被害者、両者が不幸な結果となった事例があります。

岩手労福協は、自転車条例の実現に向けて、2022年3月15日に連合岩手と連名で「岩手県自転車の安全な利用等の促進に関する条例制定を求める請願」を岩手県議会に提出しました。同年2月定例会で請願が採択され、今年2月の定例会で「自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例（案）」が提出され、評決者数44、賛成44、反対0で議決されました。

岩手県は今年4月1日、自転車の安全で適正な利用を推進し、県民が安全に安心して暮らすことができる社会の実現に寄与することを目的に自転車条例を施行、長年に亘る取り組みが実を結びました。なお、東北6県では一番遅い自転車条例の施行となりました。また、損害賠償責任保険等への加入は、残念ながら“努力義務”にとどまりました。



2023年度 主な行事予定

1. 2023年度労働者のための学習会（新企画）

成人年齢引き下げに伴う若者の消費者トラブル防止と予防を目的に金融リテラシーを学ぶ機会を提供する。併せて、物価高騰など家計応援の視点から労働者の可処分所得向上のための保障の見直しを学ぶ機会を提供する。

- 日程 8月19日(土)
午前9時30分～午後12時00分
- 場所 エスポワールいわて 2F
「大中ホール」
- 募集 先着100名、参加無料
- 講師 東北労働金庫岩手県本部
こくみん共済coop岩手推進本部

2. 2023年度退職準備サポート研修会

退職後の不安解消の一助に資するため、年金制度の概要、お金の活用策や保障設計などについて学び、退職後の生活に役立てていただくことを目的に開催する。

【盛岡会場】

- 日時 9月23日(土)
午前10:00～午後3時35分
- 場所 マリオス 18F 「180・181会議室」
- 募集 先着50名、参加無料

【北上会場】

- 日程 9月30日(土)
午前10:00～午後3時35分
- 場所 北上オフィスプラザ 2F
「セミナールーム」
- 募集 先着50名、参加無料

3. 第42回岩手県勤労者美術展

県内勤労者とその家族に芸術表現の機会を提

供し、文化創造活動を高め文化教養の向上を図ることを目的に開催する。

- 会期 10月3日(火)～6日(金)
- 場所 盛岡市民文化ホール・展示ホール
- 部門 絵画・写真・書道(各部門一人1点まで)、出品無料
- 募集 7月下旬～9月1日まで

4. 2023年度労働者自主福祉運動に関する理念・歴史講座

労働運動と労働者自主福祉運動が果たしてきた役割と歴史を学び、その理念に対する認識と理解を深め、職場や地域における運動推進を目的に開催する。

- 日時 11月11日(土)
午前9時30分～午後12時00分
- 場所 エスポワールいわて 3F
「特別ホール」
- 募集 50名程度、参加無料
- 講師 中央労福協講師団
東北労働金庫岩手県本部
こくみん共済coop岩手推進本部

5. 第27回岩手県勤労者ボウリング大会

勤労者とその家族を中心に、スポーツを通じて健康の維持・増進、明るい職場環境の形成などを目的に、スポーツ交流の場を提供する。

- 日時 2024年2月3日(土)
午前10時00分～午後12時00分
- 場所 盛岡スタークーン
- 募集 18チーム(72名)
- 参加費 1チーム6,000円

